

いの流水俳壇

「当季雑詠」

特選

箴音の母の記憶や虫の夜

刈谷 志津選

津田 久美
〔評〕「箴音の」箴とは、機械機^{はたオリ}の付属具として、縦糸の間に横糸を打ち込むのに用いる。終戦後、物資が欠乏して、母は娘達に何とかして新しい着物を着せたい一心から機械機を出し、繭から取った絹糸で絹反物を織り、数枚の着物を作り上げた。器用で気丈であった母の面影が箴音と共に蘇る。今も大切に母の形見として仕舞ってある。作者のお母様も機を織られた。その懐かしい記憶は今も鮮明に「タンタン」と二回ずつ打つ箴音が郷愁を誘い、優しかったお母さんとの思い出に浸る時、いつしか虫の音も遠ざかり、夜も更けてゆく。共感を覚え万感胸に迫る一句。

道すがら勞つて行く稲の秋

川村 博子

〔評〕稲は熟して実となると米と言い、日本の農業で最も重要な作物である。稲が実りの秋を迎えると、農家では晴天の日を選び、稲の収穫を行う。現在は刈り取りから脱穀まで、すべて機械で行う。しかし使うのは人である。上五「道すがら」は、田園道を行くとそこで稲刈りをしている様子。中七「勞つて行く」で、隣人に作業の苦勞をいたわるように言葉をかけながら行く。下五「稲の秋」は、米農家では稲の総仕上げの時に表す。出来映えに一喜一憂はするが、わが田で作った新米は格別である。特に中七「勞つて行く」の表現は、多忙な収穫時に一陣の涼風を感じさせて絶妙。ほのぼのと心温まる風景。

色なき風わたる野を行く別れ鳥

渡邊ゆかり

〔評〕「色なき風」とは秋の風の事で、「古今六帖」の紀友則の「吹きくれば身にもしみる秋風を色なきものと思ひけるかな」の歌に基づき、また「新古今集」の久我太政大臣雅実の「物思へば色なき風もなかりけり身にしむ秋の心ならひに」の歌が、この語「色なき風」の意味と色を決定的なものにした。(歳時記より抜粋)無色透明な「色なき風」が吹き渡る野を、数羽の鳥がそれぞれ別々の方向に飛び立ち別れて行く。「色なき風」と「別れ鳥」の取り合わせにより荒涼とした晩秋の景「色なき風」の寂寥感を一層深め、もの淋しさが漂う。鳥も帰り野はひそやかに暮れて行く。

入選

門の錆びたる門や萩日和
消しグムの角で消したる秋思かな
雲に乗り風に乗りゆく花野かな
秋暑し回転椅子を廻しても
断捨離や亡母の手紙を切りて秋
親知らず咲く悲しきや彼岸花
蒔き時を知らせにどっと蕎麦蜻蛉
高みより静寂破る鴉の声
新米を塩で握れば日本一

二句抄

猛暑耐え災害に耐え生るとは
侮れぬ民間療法ちちろ鳴く
雨音も入れて何処かで登の虫
薄味に慣れて夕餉の衣被^{きぬぎ}
吾亦紅花に重なる娘嫁ぐ日
曼珠沙華ゆえある花に祝福を
平成の最後の秋となりけり
星月夜遠い昔しが蘇る
秋の旅キャリーバッグを買いにけり
木犀の香に包まるる風の中
大根蒔く四日目にして生え揃う
椿原のグルメの秋やグリとグラ
すこやかな杜と呼ばれて桔梗咲く
秋祭り空にこだます大太鼓
添竹や不出来の菊を抱き起す
雲と風馳せてわが町天高し

次題「当季雑詠」

締切／毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町170001 ☎ 893-1922

人権擁護委員無料相談のご案内

地区	今月の相談日	相談時間	開催場所
伊野	12月4日(火)	10:00~15:00	すこやかセンター伊野 1階小会議室

法務局相談窓口・問い合わせ

(祝休日を除く月～金曜日 受付 8:30~17:15)

高知地方方法務局人権擁護課	☎ 088-822-3503
---------------	----------------

人権擁護委員

杉本 寛子
井上 晃
藤木 栄子
金子 覚
坂本 美加
高橋美智子
山本 周児

人権擁護委員へのご相談等に関する問い合わせは
ほけん福祉課まで

☎ 088-893-3810

